



豊中市教育センター
〒560-0033 豊中市蛭池中町 3-2-1-600
TEL 06-6844-5290
FAX 06-6840-8127
平成26年(2014年)10月10日 第64号

「積み重ねる」 ～ 誇れる自分に 好きな自分に ～

1年前の夏、イチロー選手が4,000本安打の大記録を打ち立てました。その際に、次のような話をしています。「誇れることがあるとすると、4,000本のヒットを打つには、僕の数字で言うと、8,000回以上は悔しい思いをしてきている。それと常に、自分なりに向き合ってきたこと、誇れるとしたらそこじゃないかと思います。」

また、マイケル・ジョーダンも勝負強さの理由を聞かれ、次のように答えています。「みんな僕が成功させたシュートのことだけを覚えてくれていてうれしいよ。でも、残念ながら、その裏には成功した数を超える多くの失敗があるんだ。」



失敗を繰り返せば、「自分っていけないよな～」っというつぶやきが心の中でこだまし、「自信」を失ってしまいます。そんな時に、どんなふうにその気持ちに向き合えばよいのでしょうか。二人のように失敗を重ねても、一步を踏み出し続ける姿勢に学ぶことが多くあるように思います。大きな壁にぶつかった時は、誰しものが自分を振り返り、何もかもうまくいかないと思いつめてしまいます。しかし、実際は、決して「いつも」うまくいかなかったわけでもなく、ただ「今回は」うまくいかなかったのかもしれない。

「自信」は「自分」を「信じる」と書きます。自分の不十分さを真摯に受け入れつつ「がんばったよね」という声を自身にかけながら、良いことにも目を向け、自分なりに一生懸命に取り組んだことを誇りに思い、「自信」を取り戻したいものです。自分を信じることができれば、前に進むエネルギーもより強いものとなるでしょう。

また、そうした気持ちの持ちようをバランスよく維持するために、誰かに話を聞いてもらい、共感され、受け入れてもらうことの安心感やつながりを得ることも大切ではないでしょうか。

もし、失敗に日々落ち込んでいる自分がいるとしたら、真摯に自分に向き合っているからこそ悩んだり苦しんだりしているのです。毎日を一生懸命に生きようとしている「いける」人だと、きっとまわりの人たちは認めていたり、感謝したりしています。負けそうな自分に「がんばってるよね」のいたわりの気持ちを伝えながら、そんな毎日を積み重ね、誇れる自分に、好きな自分になりたいものです。





次世代型環境整備 中学校大型モニター整備



教育情報化推進事業 次世代型教室環境の整備として、9月に第十二中学校普通教室・少人数教室に60インチの大型モニターを常設しました。また、今年度末には、小学校普通教室に大型モニターを常設する予定です。

大型モニターを使って、教材や授業者の手元を大きく写す、子どもたちのノートを大きく写すことが簡単にできるようになります。また、教育用パソコンやタブレットを活用して、自作の教材やインターネット、デジタル教科書を写すことができます。

センターでは、モニターの常設にあたって、わかりやすい授業、興味関心を高める授業づくりなど、有効な活用方法を研究し情報発信していきます。



ICT研修について

夏季休業中にICT研修を19回実施し、のべ500名が受講しました。とくに、タブレットの活用やエクセル・動画音声編集は、募集人数を上回る希望者があり、ICT機器を有効に活用したいという教職員のみなさんの熱意を感じました。参加された方の感想を紹介します。

「苦手意識が強く、エクセルを使ったことはほとんどありませんでしたが、大変便利なものだと知り、もっと勉強したくなりました。」「仕事の中で使えそうなものばかりで良かったです。演習問題はやや難しかったです。」「基本から教えていただいて良かったです。質問にも丁寧に答えていただき、分かりやすかったです。」

今後も、機器の基本的な操作方法から実践事例の紹介、効果的な活用方法など、幅広い研修を実施し、校務の効率化、わかりやすい授業の創造を推進していきます。研修資料は内向けホームページに掲載していますので、どんどん活用してください。

文部科学省は『教育のIT化に向けた環境整備4か年計画』を発表しました。教育センターもこれに準じて、有効な環境整備を推進していきたいと思っております。

『教育のIT化に向けた環境整備4か年計画』（一部抜粋） ～タブレット端末の活用～





子どもたちの学校生活を支える学校看護師（スクールナース）

☆豊中市では、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援に取り組み、『ともに学びともに育つ』教育を推進しています。

○学校看護師（スクールナース）とは？

日常的に医療的ケアを必要とする児童・生徒も、地域の学校で一緒に過ごし、安定した学校生活が送れるように、学校看護師（スクールナース）がサポートしています。

○医療的ケアとは？

痰の吸引や鼻等から管を通して栄養剤等を入れる経管栄養ほか、看護師でないとできない専門的な医療的行為です。

○学校生活の安定と充実のために・・・

日々の学校生活におけるケアはもちろん、運動会や校外学習、また林間や修学旅行等の学校行事にも帯同しケアを行っています。

本人を中心に、保護者、学校の教職員、看護師がしっかり連携をとりながら三位一体の支援体制のもと、『ともに学びともに育つ』教育をすすめています。

○スクールナースの声

「私たちは医療的ケアを実施するために学校にいます。私たちが医療的ケアを行うことで、子どもたちの学びが成り立つことを目的としています。障害のある子どもみんなと一緒に元気に学べるようこれからも全力で支えていきます。」



夏季休業中実施研修について

教育センターではこの夏、74の研修を実施しました。参加者はのべ2928人。教科指導や子ども理解、集団づくりなどの研修を通じて学びを深めていただけたと思います。研修を受講された教職員のみなさんから頂いた「目から鱗が落ちた」「スッキリした」「もっとこのような研修を」というアンケートの一部を紹介します。

焦点化、共有化、視覚化とわかりやすいお話でした。資料の出し方、見せ方、探し方など参考になりました。
(社会研修より・中学校)

漠然と思っていたことが図式化されてスッキリしました。また、気が付いていなかったこと、例えば“脇役”の存在の大きさ、知ることができてよかったです。
(国語研修より・小学校)

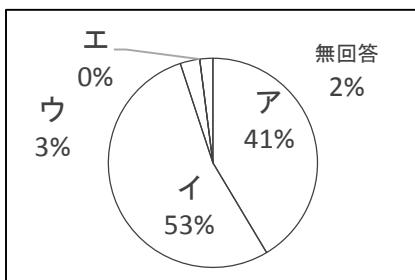
素晴らしい研修でした。とっっても自信がつきました。自然体で、意識しながら頑張ります。またこのような研修をたくさん受講したいです。
(ボイストレーニング研修より・小学校)

視点を変えて読むだけで、こんなにも物語が深くなるとは思わなかった。とても面白くてゾクッとしました。
(国語研修より・中学校)

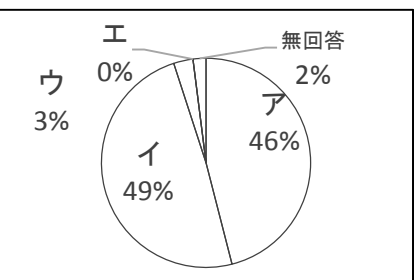
教師一人一人の「学びの系統性」を踏まえた、より良い授業づくりの追求なしに、課題は解決しないことを改めて実感しました。
(算数・数学研修より・中学校)

年に数回、このようなエクセルの研修をやっていただきたいと思いました。とてもわかりやすく勉強になりました。
(ICT研修・小学校)

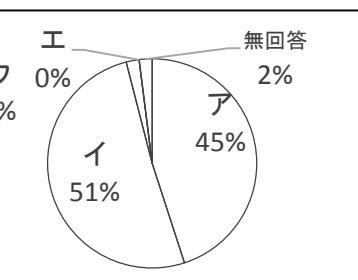
期待や要望に込えているか



内容は充実しているか



今日の教育課題に込えているか



ア.強く思う イ.思う ウ.思わない エ.全く思わない

先生方から受ける相談より

一人で抱え込まないための事例検討

前回の最後で、一人で抱え込まずに学校で対応していくことも大事と書きました。ちょうど7月31日の教育相談基礎研修でも体験していただきましたが、今回は事例検討の進め方について考えたいと思います。



複数で対応することのメリットは…

- ① 問題を多角的に見ることで、視野と対応の幅が広がる。
- ② 学校内にすでにある力を引き出せる。
- ③ 対応する先生方が、互いに支え合っている実感を得られる。

では、このメリットを引き出すための、具体的な進め方を見てみましょう。

1.関係者が集まります。

担任、学年団、管理職、教科担当、前（元）担任、養護教諭、クラブ顧問、SC、派遣相談員、SSW等、対象となる子どもに関わっている人や専門家等、事例の内容や状況に応じて必要な人が集まります。

2.担任が、気になる子どもや保護者、クラスの状況等について、今困っていることや、考えたいことについて話します。

3.他のメンバーが、わからないことを質問します。

「家での様子は?」「家族構成は?」「困った状況はいつから?」等を聞くことで、メンバーがより状況を明確に把握できるようにします。

4.アイデアを出し合います。「子ども理解」「解決すべき問題」「私ならこうする」等テーマを決めて、それぞれのテーマごとに意見を出し合うと話し合いが深まります。できるだけ多くの方が発言できるようにしましょう。

効果的な話し合いをするためのポイント

- ・ 批判や否定はしない。
- ・ 問題点だけではなく、良い点（長所、得意なところ等）も挙げる。
- ・ 「良い例外」を探す。（解決のヒントが隠れているかも…）
いつもは指導の入らない子なのに、なぜかこの時はうまくいったんだけど…
というようなエピソードを挙げて、何が良かったのかを考えてみる。
- ・ 子ども理解は一つではない。 違った意見や見方があってもいい。
子どもの言動の背景に何があるのか、いろんな可能性が考えられることを実感して視野を広げることが大事。

5.まとめとして担任から、話し合いで参考になったことや新たな気づき、今後取り入れたいこと等を交えて感想を述べます。

今回は事例検討の進め方の一例をご紹介しましたが、形式にこだわらず、普段から気軽に相談し合えるような、先生方同士のつながりがあると良いですね。つながりがあることで、先生方の役割分担（生徒指導が叱り、担任は寄り添う、保健室では身体面でのケアをする等）も効果的に行いやすくなります。また、虐待や深刻なケースでは、外部機関と素早く連携をとることも忘れないで下さい。